

白土 私、本日司会を務めさせていただきます、埼玉県議会議員の地元春日部選出の白土幸仁と申します。なぜ私が司会なのかというと、私が勝手に勘違いしているのですが、昨年、子どもの留守番条例、皆さん覚えている方がいらっしゃると思いますが、私はその条文の作成に携わらせていただいて、県民の皆様にはいろいろご迷惑をおかけしました。何より子ども第一にいろいろ考えなければいけないという気運をつくろうと考えたんですが、われわれのほうもなかなか至らないところがあったということで、おわびも含めて、そういった縁があつて司会をさせていただいているのかなと勝手に勘違いさせていただいている白土幸仁と申します。本日は拙い司会ではありますが、最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、第 14 回済生会生活困窮者問題シンポジウム・子ども支援フォーラムに多くのご来賓の皆様がお越しくださいました。ここでご来賓の皆様よりご挨拶をいただきたいと存じます。まずはじめに、前復興大臣、衆議院議員、土屋品子様よりよろしくお願い致します。

来賓挨拶 衆議院議員 土屋品子氏

皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、地元の衆議院議員の土屋品子でございます。そして、10 月 1 日まで復興大臣として 1 年と半月務めさせていただきました。地元で皆様にもたまにお目に掛かることがあるかと思いますが、今日はこの恩賜財団済生会の困窮者問題に関するシンポジウムということでご案内をいただきまして、ということでお話をさせていただきますことを本当にうれしく思います。

いま炭谷理事長さんから困窮問題、特に子どもの問題、大変いろいろな問題があるというお話を聞かせていただきました。いままで日本では子どもの貧困というのがこんなに大きな問題にはなつてこなかったわけですが、この 10 年ぐらい、子どもの貧困は相当深刻な問題になっていると思います。特に 1 日 1 回食べられるか、食べられないか、これは最も深刻な問題だと思っています。学校の給食が一番のごちそうであるということもときどき聞こえてきていまして、これは私どもにとって本当にショックな課題です。そういう中で、政治の世界でわれわれはもっともっといろいろな改革、支援をしていかなければいけないというのを改めて感じているところです。

さて、私は 1996 年に第 1 回小選挙区制の中で衆議院議員に立候補し、当選させていただきました。現在 8 期目の衆議院でした。今度まもなく選挙がありますが、9 期目に挑戦

したいと思っております。そんな中で思い出すのは、私は1回目と2回目は党に所属せず無所属で立候補し、最初の委員会が厚生委員会でした。厚生委員会に入った途端、介護保険法の審議の真っ最中でして、最終的にこの法律を通すか、通さないかという中で、自民党と公明党の与党と、野党が、委員会の中で半数・半数でなかなか決まらないという状況でした。その中で、無所属の私の1票が右へ行くか、左へ行くかという状況で、まったく1年生の私が相当真剣に考え、どうしようかと迷った法律です。

そんな中で地元へ帰って、後援者の皆様に「介護保険を通すのをどう思いますか」ということをずいぶん聞いて歩きました。そうしますと、まだまだ在宅で介護をしたりしている人もそんなに多くはないけれど、でも困っている人が増えつつあるという声を聞きまして、介護保険法は絶対通したほうがいいんだなという思いになり、私の1票を投じたことによって介護保険が通りました。

その後28年経ったわけですが、この保険法がなかったら本当にどうなっているんだろうという思いです。これから高齢者がもっともっと増えてきます。そんな中で済生会の役割は本当に大きいものだと思います。私たちの地域に特別養護老人ホーム彩光苑があるということは、私たちの安心につながっていると感じています。そういう意味でも、皆様と一緒に、彩光苑の皆様と地域のしっかりとした和をつくって、助け合って介護、生活、そして今日のシンポジウムの子どもたちを見守っていければと思っております。

私は復興大臣で東日本大震災の被災地に足繁く通った中で最も気にかかったのが、両親が津波にのまれ、親なし子になってしまった子が結構いる。そういう子たちの今後の生活は最も心配なことでありますし、最もケアしてあげなければいけないことだなというのを痛切に感じております。

これからも皆様とともに、被災した地域の応援をしていければと思いますし、いま能登が大変な状況でして、能登でも同じようなことが起こっています。そういう意味で、今日のシンポジウムを通して、皆様が地域で子どもたちのために何ができるかということを考えていただく機会になればと思います。このシンポジウムが本当に素晴らしい成果を出して、地域に広がっていくことをご祈念申し上げまして、今日のご挨拶とさせていただきます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

白土 ありがとうございます。続きまして、春日部市長、岩谷一弘様、よろしくお願いいたします。

来賓挨拶 春日部市長 岩谷一弘氏

皆様、こんにちは。ご紹介いただきました春日部市長、岩谷一弘でございます。社会福祉法人恩賜財団済生会の皆様におかれましては、日頃より本市における地域住民の福祉向上のためご尽力を賜っておりますこと、深く感謝申し上げます。

さて、こどもを取り巻く環境ですが、時代とともに大きな変化をしてきたと実感しているところです。昨年、令和5年4月にはこども基本法が施行されました。私もいろいろなところで勉強させていただきましたが、一番重要なことは、こどもに関する施策を行政などがつくる場合、必ず当事者たち、つまりこどもたちの意見を反映しなければならないという、これは絶対に必要なことです。いまこどもの意見をなるべく真摯に取り入れていく姿勢が求められているということです。

先ほど、土屋代議員からお話がありましたが、実は、こどもたちは「給食費をただにしてくれ」とか「医療費を無料にしてくれ」と望んでいないのです。「お腹いっぱいご飯が食べたい」「広いところで自由に遊びたい」、そんなことが願いだったりするわけです。そのような本来の願いを施策に反映させていくことが大変重要であると思っております。これを実際に行政側である市が行っていく「春日部市こども計画」を現在策定しております。この策定にあたっては、児童や生徒を審議会のメンバーに入れて、なるべくその世代に近い方々の意見を受け入れられるようにしているところです。

また、この4月1日からは主要な公民館を市民センターにしまして、こどもの遊びのスペース、また自由に学習いただけるスペースとして開放して、いま取り組んでいるところです。

本日は、夜回り先生で有名な水谷修先生から「壊されゆく子どもたち」と題する講演、その後シンポジウムと伺っております。私、2回ほど先生の講演を聞いたことがあります。が、初めて聞いたのは20年ぐらい前、30代だった頃です。大変に衝撃を受けました。非常に重い話で、こういう世界がまだあるんだ、現実にはこどもたちの近くにこのような世界があるんだということを知りました。先生の講演を聞く貴重な機会はなかなかないので、ぜひこれを機会にこどもへの接し方や、大人のあり方を学んでいただければ幸いです。

結びに、本日ご出席の皆様の今後益々のご健勝、そして社会福祉法人恩賜財団済生会様の益々のご発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。(拍手)

白土 ありがとうございました。本日のシンポジウムにはお二方からメッセージをいただいておりますのでご紹介させていただきます。

祝電 川口市長 奥ノ木信夫氏

「子ども支援フォーラムの開催を祝し、心よりお喜び申し上げます。今後益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます」。

祝電 衆議院議員 奥水恵一氏

「本日の子ども支援フォーラムがかくも盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。皆様には日頃より大変お世話になり、深く感謝申し上げます。今後も貴会の益々のご発展と、ご参会の皆様の健勝とご活躍をご祈念いたします」。

白土 川口市長・奥ノ木信夫様、衆議院議員・奥水恵一様。まことにありがとうございました。

それでは基調講演に入らせていただきます。本日は「壊されていく子どもたちー今私たちにできること、しなければならないことー」と題しまして、夜回り先生の愛称で有名な、水谷青少年問題研究所、水谷修所長様にお越しをいただきました。プロフィールに関しましては事前に配布させていただいておりますチラシのほうでのご確認をお願いいたします。それでは水谷様、お願いいたします。